

【平成15年度 葛飾FC保護者会報告】

平成16年1月10日(土) 葛飾公民館にて、第3回目の全体会(保護者会)が行われました。その内容は以下の通りです。

1. チームの考え方について

1) チーム方針、規約

クラブの基本的な考え方はこのまま4年目に継承していきたいと思う。ただし、コーチや部員の増加に伴う規約やルールの改訂は必要があれば総会で承認を受け改正をしていきたい。

サッカーは6年生で終わりではなく、うまい子を育てるのが目的ではなく、サッカーを行う場を与え、大人になっても楽しめるように、サッカーの楽しさを知ってもらいたい。

2) 指導部(指導要員 指導理念)

指導理念としてはジュニア時代に必要とすべきスキルをしっかりとマスターする方向は今後も進めていきたい(試合はその時の練習テーマや、個々の成果の確認の場である。勝ち負けは子供たちが考え、指導者は次の課題を考えることに専念したい)。

3) 事務局(チーム運営)

事務局が中心に、学年代表の意見調整の場を持てるようにし、すべての保護者の方がチーム運営にかかわれるようにしていきたい。

チームは裏方である母親のサポートに支えられて運営されている。また、チームの考えが統一されていないとチームが分裂してしまう。来年度は葛飾FCを立ち上げて4年目になる。学校との関係では、サッカー部に協力してくださった先生方が異動する可能性が高く、学校を経由しての情報の伝達等は期待できないと思われる。われわれ全員が、よりよい組織になるように、主体的に運営に関わって欲しい。

2. 来期の総会に向けての問題提起(指導部からの提案)

指導部からの提案は、来期に向けた検討事項であり、決定ではなく、今後、コーチ間で協議していく予定。

1) 外部指導者の導入の検討

子供たちのより良いサッカーの場の提供のために、コーチたちの指導能力のアップは大変重要になってきている。外部より質の高い指導者を有償で迎えることも一つの方法だと思われる。現在は土日しか練習できないため、もっと練習したい子ども達へ練習の機会の提供と、技術力をもったあこがれの存在になれるようなプロのコーチを招くことは、お父さんコーチのスキルも上がり、良い影響を与えられると考えられる。

2) 能力別チーム編成の導入

保護者会でも一度話したことがあるが、同じようなレベルの仲間とサッカーをすることを、一度制度として導入してみたい。特にフットサルで3年生からの導入を考えている。5・6年生は全員で行う。エリート養成ではない。大会エントリーは全員がチームのメンバーとしてエントリーできるように、7名ほどでエントリーをすること(全員が正メンバーとして試合に臨めること)。

コーチはBチームのメンバーをいかにスキルアップできるかが重要であることを認識すること。

葛飾の場合、学年の中での子供たちのサッカーに対する温度差がかなりある。その為、試合のテーマもチーム毎に変えることが必要になると思う。

3) コーチのスキルアップ(指導者講習会の受講、チーム内での調整)

予算が許す限り、指導者講習会には参加できるようにしたい。またコーチ会議や練習でのコーチ間の打ち合わせを密に行きたい。またチーム運営に関しても積極的に関与して欲しい。

昨年は、福部コーチ・横堀コーチが、今年は、飯吉コーチ・大崎コーチ・八木コーチが少年少女の指導者の資格を取った。またコーチには審判指導員4級の資格を取ってもらっているが、年間10試合を行えば3級が、そしてその上の資格もあるので、それらの資格でコーチの指導力を上げていくのもいいと思う。

3. 各学年コーチより

1) 1年生: こうした方がいいだろうと練習方法を考えたが、なんとなくではなく指導部からの方針を基に具体的に話し合っていたらいい。やっていることがいかにどうかの評価のために、子ども達がどう感じているか聞きたい。コーチ間のメールのやり取りを流す方法はいいか考えている。あとは、コーチのスキルアップを行いたい。(本堂コーチ)

2) 2年生: 2年生のみんなと仲良くやるため、全員の名前を覚えようと思

ったが半分ほどしか達成できていないので、来期は全員の名前を覚えたい。(田口コーチ)

2年生は人数が多く均等に目が配れなかったのも、もっと目を配ってほしい。少年少女の指導者講習会などで言われるがこの時期はゴールデンエイジと呼ばれ、精神的に伸びる時期である。家庭でも子どもとサッカーの話しをして、声をかけながら出来たことをほめてあげて欲しい。(飯吉コーチ)

3) 3年生: 子どもと一緒に楽しくサッカーができればという動機で始めたが、コーチの難しさを感じる。今後も指導部の協力をいただきながらやっていきたい。練習メニューを作っているが、技術的の難点を示す部分など、他の学年のコーチにも協力を仰ぎたい。(和川コーチ)
練習メニューを考えているが、準備運動など基本的な神経系の運動も効果的だと思われるため、いろいろなアイデアを取り入れていきたい。(中島コーチ)

4) 4年生: 楽しく格好良く練習できるようにメニューを考えた。個人のレベル差が出来てきたが、天狗を作らない甲乙をつけないチーム編成を作ってきた。他のチームと比べても、優劣なくやって行けていると思う。うぬぬないでチームのことが考えられるように育てていきたい。(伊瀬コーチ)

5) 5年生: 根気強く子ども達に関わりたいと思う。子どもによって伸び方は様々で、徐々に伸びていくタイプの子もいる。自分が選手だった時のイメージを捨てて関わらなければならぬ。中学生になってもサッカーを続けていけるように育てたい。また、5年生はサッカーが好きな子が多いので、練習のし過ぎに注意し、怪我をしないように家庭でも気を付けて欲しい。(八木コーチ)

6) 6年生: 昨年の6年は強く、たくさんのメダルをもらっていた。今年の6年生は能力的には落ちてきている。今までにある程度のレベルにもってこれなかったコーチの反省もある。この6年生を育てるにあたって、勝敗だけでなく仲良く卒業生大会にでられるように考え、また、自分で考えてプレーができるように、指導してきた。そして今回レフリーカップでは、青木キャプテンを欠きながらも盾をもらう健闘で、嬉しそうに喜ぶ子ども達の顔を見て成長を感じた。(大崎コーチ)

7) 横堀コーチより: 子ども達はメダルを欲しがっている。子ども達のその素直な「メダルをとって嬉しい」というピュアな心に働きかけるように育てていきたい。

4. 事務局および役員より

1) 事務局：子ども達がよりよくサッカーができるように、大人として自立して関わってくれればいいと思う。今年度も代表の方から情報を待つのではなく、気付いたことを聞いていただい、いい形で運営することが出来た。

2) 会計：今年度は運営規模も大きくなったため、交通費も書面で残すようにした。また、清算についても数回に分けて行うようにした。みなさんのご協力で、滞りなく行うことが出来たが、今後、改善すべき点があれば変更して下さい。

3) 葛飾FCニュース：葛飾FCニュースは、いつ何度出すという決まりはなく、全員に知ってもらいたいことがあれば発信している。もともとは事務局が、コーチ間のメールのやり取りなどの内容を、皆さんにも知ってもらいたいと思、ニュースにして伝えたものである。子ども達を温かくそして熱く見守って下さるコーチのやり取りを、皆さんが知るための発信源の1つにしていければいいと思う。

4) 予定表：この仕事を引き受け、表を作ることに慣れてきた。今年度からトイレ当番の欄をつくるなどの工夫をしてきた。

5) 保険：部員が増えるたびに加入していただいた。4～5件の怪我のケースがあったが、保険がおりる条件が通院4日以上ということで、保険はおりなかった。保険内容の変更を含めて、異なる条件の保険についてご存知の方がいらっしゃれば教えて下さい。

5. 各学年代表より

1) 1年生：何もかも初めてのことなので、協力しながらやってきた。あと、聞けばよかったがどんな保険に入っているか、分かりにくかった。保険については、入部時にインフォメーションしてしたが、不十分であったため、今後、周知するよう考えたい。

2) 2年生：来期は技術面を向上させるため、真面目に練習に参加するよう働きかけたい。試合に勝つ楽しさを感じ始めているので、勝つ機会を与えたい。人数が多いということもあるが、連絡網でうまく伝わらないというトラブルがあった。必要事項は確実に伝えるようにしていきたい。

3) 3年生：子ども達は長男が多いからかおっとりしていて、本番では固くなってしまい、実力が発揮できない場面があった。練習試合を増やし、他校

と試合をする経験の場を作っておきたい。

4) 4年生：この学年は素直で明るい子ども達で、皆さんの協力もありやってこられた。一人一人が意識を持って運営することの大切さを感じた。夏場冷たいものを準備するなど、気が付く人がたくさんやるのではなく、みんなで気を配って行けたらいいと思う。連絡網については、FAXでの連絡を活用することでトラブルが避けられた。

5) 5年生：子ども達も大人達も仲の良い学年で、よく話し合いながら行っている。今後は、来年の役員を決めて運営していくことが課題である。6年生を送る会では、人数の関係から4年生以上で行うことを検討中である。

6) 6年生：3年生から参加する学校体育から始まったメンバーで、最初は部員5名からのスタートだった。サッカー経験者も少ない素人達が、何もなかったところから、社会体育になった葛飾FCの運営を誠心誠意でやってきたという感想である。出来る人がやろうということやってきて、良かった点もあるが、結果的に気が付く人に任せてしまって、負担が片寄ってしまったという反省点がある。

事務局については、一人でやれるだろうと引き受けたが、当初より人数が倍増して大変だった。例えば事務局も複数人立てて、サッカー協会との外の渉外と中の調整とを分けるなど、来年度は、いいところは真似て改善すべき点は変えていければいいと思う。葛飾FCニュースの作成も、原稿を作る人と、平日に学校で印刷をして配布する人を分けて行ったので、やる事ができた。仕事を分担することが必要だと感じる。

交通費についてだが、学校体育の時は電車で移動しており、その後も事故が起こった時のことを考え電車での移動が基本であった。しかし、会場が駅から離れている時は車の移動がよいか、最近では電車で移動が必ずしも安全ではないという考え方もあるため、今後の基本方針を話し合う必要があると思う。

6. その他

1) 忘れ物について
忘れ物が多く、忘れ物のほとんどに名前が書いていないため、気を付けて欲しい。

2) 青木コーチより

ヴィヴァイオ船橋サッカークラブのホームページより、「自分の子供が壁にあたっての姿を楽しめますか?」という話で、葛飾FCの考えと共通することがあるので紹介したい。

【ホームページからの引用】

壁に当たった時、ポジティブに考え自己理解と状況判断ができ、打開していく力は若年世代の多くの成功・失敗経験が大切だと考えています。・・・中略・・・自分の形でしかプレーできない選手が、周囲を見回し状況判断をしながらプレーを選択する場面を見ると、一つの壁を乗り越えはじめたなあーと本当に嬉しくなるものです。・・・中略・・・何がどうだったかということをお大切にしないで、ゲームを繰り返している現状は発展成長という意味では厳しさを感じます。ジュニア年代の多くの大会は、勝つために出るのでなくトレーニングの成果を確認するために出ているんだよ。個々人の成長と課題を確認するために、選手は勝利を目指し頑張ればよい。

家庭でいろいろとサッカーのことを話して欲しいという葛飾FCとは、状況が異なるところもあるが、目指している方向は同じだと感じる。

ヴィヴァイオ船橋サッカークラブURL <http://www.vivaio-funabashi.com/>

3) 6年生を送る会について

人数の都合から4年生以上で行うということであったが、1年生のうちから6年生の卒業する姿を見て欲しい、1年生から6年生まで葛飾FCの仲間であるという意見や、低学年は長時間参加するのは無理ではないかという考えなど、様々な意見があった。

学校体育から社会体育に変わり大所帯となったため、今までの伝統にこだわらず、グラウンドで行うなど、場所や内容を変えることも含めて検討してもいいのではないかという意見があった。

【5年生保護者からのお知らせ】

6年生を送る会について、再度検討致しましたが、やはり本年度はコーチ・部員の人数も大幅に増え、場所等の問題もあり、参加対象者は全学年のコーチと4年生以上の子供及び保護者とさせていただきます。

また、全体として3月の練習日(未定)に1～6年生全員で「お別れ会」を検討しておりますので、詳しい日程等が決まり次第、予定表等でお知らせ致します。